

臨床的センスが磨かれる講習会

2006年7月30日と8月6日の2日間にわたって「李世珍の針」講習会・実力養成コース(中級篇)を開催しました。講師は、今回の講習会と同じ白川徳仁先生(写真左・中上)と関口善太先生(写真中下・右)が務められました。



講習会を終えて、ほぼすべての参加者から、講習の内容に満足したという声が届けられました。とりわけ多かったのが、この講習会では、書籍では学べない臨床に直結した内容を多く吸収できたという声です。

- 基本的な知識は本を読めばある程度理解できるので、先生方がいかに臨床でこの針を自分のものにしているか、具体的にどのように使われているのかがわかり、とても参考になった。
- 本で勉強すれば足りるような内容の講習ではなく、弁証や刺針についての臨床的なセンスが磨かれるような講習会だった。
- 今回は陰陵泉の刺し方(方向・角度・深さ・ひびき方)や補・瀉のときの得氣の感じ方の細かな所など、本には書かれていないことがたくさん聞けて勉強になった。
- 臨床で、どのように「李世珍の針」を活用されているのかが聞けてよかったです。

また、期待を上まわる内容だったという声もたくさんありました。

- 得氣を得られないときどう対応されているかまで教えていただけるとは、期待以上でした。
- 講師の刺針を自分の身で経験できることは、受講生にとって貴重な財産になる。
- 受講生と先生とで相互に進められる講義はすばらしい。
- 討論することによって、思考過程を整理することができた。

なお、講習会のリポートを当社のホームページに掲載しています。

ホームページアドレス：<http://www.chuui.co.jp/>

トップページまたは「李世珍先生の針」からお入りください。